救援金寄付が続々

熊本放送と熊日受け付け

東日本大震災の支援に向け、熊本日日新聞と熊本放送が始めた救援金の受け付けが、14日から本格化。熊本市の本社や県内の総支局には救援金の寄付が相次いだ。

【1面参照】

このうち熊日宇城支局には、宇城市の古賀酒販（古賀康彦社長）と姉妹店のセブンーイレブン熊本松橋東店（古賀絹子オーナー）が100万円を届けた。寄付したのは、秋に予定していた同社の「100周年記念式典」の準備金。古賀社長は「1999年の高潮災害の時、多くの人の支援で再開できた。被災地の人に元気を取り戻してほしい」と話した。

また、コスギ不動産（熊本市）の小杉康之社長が同市の熊日本社を訪れ、伊豆英一社長に250万円の目録を手渡した。小杉社長は「住まいを扱うわれわれにとっても、今回の震災は人ごとではない。適切な救援に役立ててほしい」と話した。

15日からは、銀行振り込みもできる。